

第十一回与謝野町蕪村顕彰全国俳句大会

自由題の部 入賞作品

与謝野町俳句大賞

オルガンは引き潮の音鱗雲

大阪府堺市

間谷雅代

京都府知事賞

菱咲くや鰐口小さき安寿塚

京都府舞鶴市

新庄富美

与謝野町長賞

舟屋みな欠伸をしたり伊根の夏

兵庫県姫路市

國光六四三

与謝野町議会議長賞

引き返すときも尺蠖虫なりし

福岡県福岡市

角野良生

与謝野町教育委員会教育長賞

臥す母に深爪ひとつ夜の秋

京都府福知山市

芦田美幸

与謝野町文化協会会長賞

機音の続く未来へ夏の空

京都府福知山市

足立みつ子

塩見恵介賞

ぐぜる児の額の汗を拭くおばあ

大分県宇佐市

岡嶋あけし

山田佳乃賞

かなかなや峡の機音終るころ

京都府与謝野町

尾藤静子

選評一覽

選者 塩見恵介 山田佳乃

与謝野町俳句大賞

オルガンは引き潮の音 鯛雲

大阪府堺市 間谷雅代

【塩見】 あたかにくぐもる柔らかいオルガンの音色。鯛雲から降り来る陽光。その配合が美しい神々しい大景の句。静謐な海浜の風景(視覚)に、引き潮の音(聴覚)のみの響く対比も美しく、さまざまな照応が一句の中に包含された理論的な一句でもある。

【山田】 オルガンの音は揺れ幅の大きい音だった記憶がある。波打つような音を「引き潮の音」と表現されたのがとても印象的。「鯛雲」は縁語になっていて空の広がりと言音の広がりを感じさせて立体感のある句となっている。

京都府知事賞

菱咲くや鰐口小さき安寿塚

京都府舞鶴市 新庄富美

【塩見】 安寿の犠牲的精神を通じて人の生きる意味を問う「山椒大夫」。宿命を肅々と受け入れて生きた安寿の生き様は人の心を打つ。その安寿の塚の、小さな鰐口が、彼女の人柄を投影するか。菱の花の群生に、佐渡を思う。この一句を以て京都と佐渡は海を通じて繋がることを再確認した次第である。

【山田】 菱さく湖沼はのんびりした自然の多いところだろう。安寿塚は佐渡にも丹後にもあるらしいが、安寿と厨子王の哀しい物語と祠に小さな鰐口が下がっている景が響きあって独特の雰囲気を感じられる。

与謝野町長賞

舟屋みな欠伸をしたり伊根の夏

兵庫県姫路市 國光六四三

【塩見】 夏の晴れた午後、朝の漁を終えて戻った舟が舟屋のなかでたゆたう様子を想起する。どの舟屋も明るい海を向いて口をあげ、それぞれの舟を舌のように見せているか。日差しに煌めく湾内の小波に優しい気分になる一句。

【山田】 伊根の舟屋は昔ながらの佇まいで人気の観光地である。舟の出入り口がぼっかりと口をあけて欠伸をしているように見えたのだろう。そんな舟屋を見ているとこちらまで欠伸をしてしまう気持ちがある。

与謝野町議会議長賞

引き返すときも尺蠖虫なりし

福岡県福岡市 角野良生

【塩見】 身体を伸縮させてゆっくり進む尺蠖虫の独特な歩様。何かに驚いたか、はたまた、躊躇う障害物に出会ったか。後退りする歩様もVTRの巻き戻しのように伸縮。その動きの発見に驚く、作者の瞳目がうかがえるようである。

【山田】 そう言われるとそうなのだが、葉の先までいって引き返

すというのも面白いし、やはり尺をとりながらだったというのも面白い。改めて言われることで、なるほどと感じさせてくれる句。

与謝野町教育委員会教育長賞

臥す母に深爪ひとつ夜の秋

京都府福知山市 芦田美幸

【塩見】 作中の母は病臥であろうか。看護者が丁寧に身体を見守り、その中で「深爪」という部位への目付に様々な思いを馳せる一句。来し方の母の苦勞を労りをもって見る気配。折しも夜の秋。繊細な物思いを抱かせる涼しい夜風。

【山田】 寝たきりなのかもしれないし、長く病んでおられるのかもしれない。お看取りの中誰かが切ってくれた母の爪がひとつ深爪だったのだ。その痛みが切なく身につまされる。「夜の秋」という季節で更に深い情感感じられる句となった。

与謝野町文化協会会長賞

機音の続く未来へ夏の空

京都府福知山市 足立みつ子

【塩見】 織物を一心に紡ぐ機織機の音が夏の入道雲に飮する。丹後の場をこの句に見るのであれば、爽快な潮風も感じられそうだ。手仕事の厳しさを承知の上で、それでも手仕事の喜びに明るい未来を見んとする作者。そのポジティブな思考は夏の空の明るさと共鳴しているようである。

【山田】 絹織物は生活様式の変化で厳しい状況だったけれど、近年その織物の品質のよさなどが改めて評価され海外にも広がっていると聞く。明るい未来を感じさせる句で、これからもずっと機音が続くようにという祈りも込められている。

塩見恵介賞

ぐせる児の額の汗を拭くおばあ

大分県宇佐市 岡嶋あけし

【塩見】 「ぐせる」とは、「ぐずる」「むずがる」の意。夏、泣きすぎて汗だくの赤子の面倒を見、額に手ぬぐいをあてる「おばあ」は作者か。おばあの方がもっと汗だくになっているはず。胸の中が溶けるような郷愁とヒューマニティを感じた一句。

山田佳乃賞

かなかなや峽の機音終るころ

京都府与謝野町 尾藤静子

【山田】 機織りをしながらの峽暮しの夕暮れはかなかなが聞こえてくるという。それほど遅くまで働かず、日が暮れば終わるのだろう。ゆっくりとした時間に委ねた暮らしが懐かしく感じられる。

自由題の部 入選一覧

塩見恵介選

賞候補

山村の若き移住者五月風 東京都江戸川区 金沢昭一
水筒に水を満たしぬ原爆忌 愛知県名古屋市 松永房子
献体の話に及ぶ日向ぼこ 東京都世田谷区 長谷川瞳
投錨の波の煌めき夏つばめ 千葉県君津市 きたの耕兵
半農に生くる漁村の穀雨かな 岩手県盛岡市 木関偕楽
木香薔薇のアーチくぐれば日本海 京都府八幡市 坂口夫佐子
はしだてが割る月光の海ふたつ 京都府与謝野町 竹下米花
トロフィーの如く掲ぐる鳳梨かな 京都府京都市 佐野瑞季
動かねどこれも我が足辛夷咲く 大阪府茨木市 長尾菜々

佳作

川の字の真ん中に寝る仔猫かな 大阪府大阪市 今井文雄
機織りの真面目なをんな秋に入る 神奈川県横浜市 竹澤 聡
鯉の背を行つたり来たり河蜻蛉 千葉県千葉市 服部直道
春星忌時折絵筆舐める癖 神奈川県茅ヶ崎市 塚本治彦
片蔭のキッチンカーに人の列 愛知県春日井市 高岡佳子
好き嫌ひ無き子になりて帰省する 京都府福知山市 雲川濔子
田舟置く夢二生家や月見草 京都府京田辺市 末田咲子
久美浜の杜の番犬日向ぼこ 大阪府大阪市 北芝ゆう子
大げさに地球の毛抜きと草取女 京都府京丹後市 平野美和子
サンセットクルージングのアロハシャツ 山口県山口市 福田一声
末座とはいへど月には遠からず 京都府長岡京市 藤堂くにを
マカロンのほろり崩れり春の雪 東京都江戸川区 鎌田ふき子
野間川の瀬音ゆかしく香魚はねる 京都府京丹後市 藤田泰弘
無住寺となりて久しき藤の花 大分県豊後高田市 為成央子
盗む価値あるぜ月夜のランプなら 岡山県瀬戸内市 小橋辰矢
猪がいたと何だか楽しそう 茨城県筑西市 宮川礼子
だとしても残暑の夜のゴロンゴロン 京都府京都市 平田和代
舟屋の口数へて忘れ船遊 京都府八幡市 大山文字
目借時ルーズリーフの穴の数 京都府福知山市 岡田あざむ

山田佳乃選

賞候補

床屋から出て少年の夏終る 山口県周南市 吉浦宗華
鳳仙花散りて作文書き終る 福井県小浜市 上前永子
万緑や金屋城址のあたり指す 京都府与謝野町 桐村好美
秩父路や羅漢の膝に濁り酒 東京都江戸川区 林田敏幸
口々に何かを啜へ夏つばめ 大阪府河内長野市 田中清司
帰港する遠洋船に鯉のぼり 石川県珠洲市 四十住圭子
竜頭巻く遺愛の時計魂迎へ 兵庫県川西市 田邊富子

佳作

ひまわりの花の高さに肩車 奈良県大和高田市 小松丈夫
望の夜の波打つ伊根の舟屋かな 大阪府大阪市 深井保男
むんむんと街が動いて山車のくる 埼玉県さいたま市 古郡孝之
川の字の真ん中に寝る仔猫かな 大阪府大阪市 今井文雄
羊よりゆっくり動く春の雲 長野県長野市 田辺海樹
閻王の膝下にあるぬ蟻地獄 富山県富山市 若土白羊
閨門の出舟入舟春星忌 大阪府大阪市 古田几城
門ごとに色を違へて七変化 愛知県稲沢市 南久美子
芋車生きる用意に去る用意 福井県福井市 横川一子
雪嵩むごとに親しく与謝の村 京都府京都市 林游実子
七曲りして木天蓼の花明り 京都府与謝野町 柏原すみ子
岩を噛む水の猛りや戻り梅雨 兵庫県神戸市 前田容宏
簡略化進む日常時計草 大阪府吹田市 矢吹あさゑ
笑顔には笑顔を返す初鏡 京都府与謝野町 よさの四季
桐の花三百年の機の街 京都府与謝野町 杉本紀子
風鈴の夜風の音となりゆけり 京都府城陽市 蓮井いく子
頬杖の左手重し戻り梅雨 神奈川県鎌倉市 嶋村博吉
空よりも空色忘れな草かな 東京都江東区 三田忠彦
炭継ぎて座敷童を語り継ぐ 奈良県奈良市 斎藤利明
隔離さればつねんと食ふ冷索麺 兵庫県神戸市 三村正助